

<川越市>

常軌を逸した川合善明フェイクニュース!?

相も変わらず「市長ブログ」で堂々と幼稚極まる侮辱発言

川越市の市長—川合善明。この市長は一般論でいうところの「市長」の枠から大きく飛躍しているユニークな人物だ。無論、悪い意味で。川合氏は「川越市長 川合よしあき」と題した Facebook アカウントで「市長」として情報発信を続けているのだが、ときにその発言内容は、2020年11月現在で770人以上いる日本全国の市長にも前例がないほど、俗悪にして低劣な他者への侮辱となっている。

先日11月18日、川合市長は自らの「市長ブログ」で本紙と同記者を愚弄するコメントを発信して悦に入っていた。良識ある川目市議と前埼玉県議・福永信之氏に指摘されて、一部のブログを削除したものの現在のSNSでは第三者を通じて半永久的にその言動は社会に残る。川合市長は公人であり「市長ブログ」による市民個人をあげつらったの侮辱行為は許されるものではない。

奇しくも川越市長選挙直前のいま、川合市政支持者の諸氏にも冷静に再考して頂きたい。弁護士でもありながら自身で制定した多選自粛条例を廃止してまで次期市長選に出馬するという問題だらけの人物に4選を許してよいのか。

市長は帝王？

川合市長は、「市長」としての自分の言動を批判されれば、すべて自分に対する個人攻撃と認識し、「市長ブログ」を使っては市民を名指しで呼び捨てにするという品性の欠片もないことを公言してはばからない。

事実確認もしないまま激高に任せては、フェイクニュースに等しい、幼稚極まる駄文を「市長」の公式発言として公開するとは、公職者としては特筆すべき異常さである。相手が川越市民、有権者であってもお構いなしで、市外の有識者に対してもそれが自分を批判する人間であれば、憎々しげな呼び捨てで「市長ブログ」に書き飛ばし、逆に自分にすり寄る後援者については「褒めてつかわす」とばかりに「市長ブログ」で企業名や個人名まで宣伝して持ち上げるという異常な発信を公然と続けているのだ。

市長という役職が市民全体に奉仕すべき公職者で、だからこそ市税で私生活を賄われているという誰もでも理解していることを、川越市長・川合善明は理解していないようで、市長というものは、尊大なやりたい放題が許される立場だと信じて3期も「王様気分」を堪能していたようだ。

本紙記者が市長選出馬市議に「寄り添っていた」？

“川合通信社”のフェイクニュースを

理路整然と斬った**福永信之氏**(前埼玉県議)の**才知**

先日 11月18日の Facebook「川越市長・川合よしあき」に、来る市長選へ出馬を決めた川目武彦市議の記者会見について以下の文言が公開された。

もちろん、川合善明自身によるメッセージである。

川越市長 川合よしあき

川目市議が、昨日、市長選への出馬表明の記者会見をしましたが、行政調査新聞の大山信が、関口勇前市議他と一緒に付き添って来ていたので驚きました。対立候補になる川目市議には清新なままでいて欲しいです。

このメッセージは、当の川目武彦市議や前埼玉県議・福永信之氏からの相次ぐ投稿で指摘を受け、現在は一部を除いて削除されている。

福永 信之

「付き添って来ていた」って本当ですか？
まさか市長ご自分で「付き添う」光景をご覧になったのではないと思いますが、投稿本文は市長が「付き添われる」姿を見ていたと受け止められる表現になっています。どこから「付き添い」始め、記者会見の場所まで「付き添って来ていた」のですか？仮に「他人の言葉」に基づいての投稿であれば、再度お話をお聞きになり、ぜひリアルに投稿なさってください。

川目 武彦

川合様 おはようございます。大変恐縮でございますか、記者会見はしたものの、仰る方の付き添いの事実はありませんし、このような事実があると信じるのが相当となるような事情もないはずです。訂正をお願いします。あと、青臭い考えなのかもしれませんが、こういう支援者とか関係者個人に関する書き込みや情報発信はお互いに止めておきませんか。

川目市議が否定したことで、川合市長はフェイクニュースを発信していたことが明らかになったわけだが、その後続く川合市長の釈明コメントが、さらに異常である。

川越市長 川合よしあき

大山信が、記者会見の間記者クラブの部屋の近くに、何かを待つようになりの時間いました。会見が終わるまで居たかは確認していませんが、何れにしても、ご指摘の点は削除しました。失礼しました。御提案の件は賛成します。

一連のコメントの応酬に明らかだが、幼稚な川合市長のメッセージに対して、はるかに若手の市長候補・川目市議は冷静沈着に切り返す見事な「神対応」を見せた。また前埼玉県議の福永氏は、理路整然と川合氏の暴走をたしなめる結果となっている。本紙は福永氏と直接の接点はないが、県政関係者からは同氏の才知を高く評価する声をよく聞く。

もっとも、川合市長のような異常な敵対心を抱くタイプの人間からすれば、福永氏も本紙の一味などと妄想しては、あらぬ噂まで吹聴しかねないので、福永氏には本紙に名を挙げられるだけでも迷惑かもしれない。しかし、コメントを一読するだけで、同氏が広く市民社会を見渡す視座の持ち主であることは容易に拝察できる。現職市長よりも格段に上の福永氏の人間性が、押し出すことなく自然と現れたコメント対応だ。

そして川合市長は、川目市議と福永氏にあっさり一本取られた挙げ句に、文言を削除しながら、あたかも自分も同等の知性において引き分けたかの滑稽な恥の上塗りまでしているのだ。ところで、投稿削除した言動でも、川合市長の場合は「市長ブログ」としての公言であるから、過去の発言として取り上げられても当然で、本紙と記者・大山信への侮辱を謝罪（川合氏に限っては絶対にあり得ない行為）もしていないのだから市長として問題にされて道理だ。

常識も教養もなく自制もできない「市長」の異常さ

問題は、削除された文言のみならず、その後の釈明でも本紙記者・大山信を名指しで呼び捨て表記を止めない、川合市長の偏執的に異常な本紙に対する敵愾心である。本紙は長年にわたって川合市政と川合市長を批判し言及してきたが、その理由は長年にわたって川合市長が、市長職を自営業と勘違いした「おれ様市政」を止めないからに過ぎない。

以前の本紙にも述べたことだが、本紙に限らず誰も「川合善明」なる私人のことに興味などあるはずもない。仮に川合氏がカラオケと女性が大好きで、自分に逆ら

う相手には（それが自分より弱い立場だとわかっているときだけ）叩き潰すような人物であったとしても、一民間人であれば、本紙が追及する対象ではない。川合氏が仮にも川越市長という公職者であり政治家だから批判するのである。

ところが川合氏は自尊心がよほど肥大しているようで、自分の敵とみれば「市長」と名乗りながら相手を呼び捨て表記で愚弄してみせる。少なくとも「大人の社会」では仇敵を引き合いに出す際にも、敬称や役職名で表記することなどは常識で、たとえば本紙記者に敬称などつけたくないと思っても「大山記者」と書くことは一般人でも知っている。

我田引水で恐縮だが、本紙社主・松本州弘の名を引き合いに出すなら「松本社主」等と表記することが教養以前の社会常識で礼儀というものだ。犯罪容疑者でも死刑確定囚でさえも、呼び捨て表記するようなマスコミはいない。

しかし、川合市長の尊大な自我はそれを許さない。公職者で市民社会の範を示すべき市長が、ただ単に「自分が嫌いな奴だから絶対に呼び捨てにしてやる」とでもいう幼稚園児年少組も真っ青の動機で、市長としてのブログに人様の侮辱を書き付けるなど、これを異常な市長と言わずになんと言うのだろうか？

いや、いまどきは幼稚園からして男女ともに友達を「さん」付けで呼びましょと教えるほど道徳心と人権意識が尊重される時代だ。SNSが社会の生活に定着したことでより複雑化した対人関係の問題、いじめを抑止するには、いかなる人間関係でも他者に礼節をもって接することは、もはや一般社会の常識である。

この現代の常識にも反する、感情の制御も出来ない川合市長が、いままで市長でいたことだけでも信じがたいことだが、さらに4期目の市長の座を狙っているのだから、その権力への腐心と厚顔無恥さには驚くばかりだ。

川合市長の下劣なコメントにわざわざ触れることさえ馬鹿馬鹿しく辟易するが、多くの市民に冷静な判断をして頂きたい主旨から、上記掲載の川合市長釈明コメントについても追記する。

川合市長は、今回の一連のコメントで本紙と「大山信」を引き合いに出し、それが反社会的な存在であると（いつものごとく）言いたいがために、市長選に出馬する川目市議に当てこすり「対立候補となる川目市議には清新なままでいて欲しいです。」と本紙を侮辱している。本紙を「鬱陶しい」と暗示したいわけである。

「市長」の名においてこのような言動を平然とできること自体が、川合市長の「飛躍した人格」を雄弁に物語っているが、川合市政後援者の市民が、川合市長の偏執的な敵意の標的にならないとも限らない。いまは「川合市長ファミリー」だと思っても、この市長は常人が想像もしないようなことをきっかけに態度を急変させるからだ。事実、過去には、川合市長の高校時代の同窓生で腹心の部下とし

て市役所に雇用されたある人物が、川合氏の市長としての振る舞いにちょっと進言しただけで、その翌日にはメールの短信だけで解雇されたという逸話がある。

川合氏に感化され、本紙の川合市政糾弾を訝しく思う後援者諸氏に問う。本紙の評価などはどうでもいい。「市長」が自分を批判する相手を名指しの呼び捨てで「市長ブログ」で公然と侮辱するという行為を後援者の皆さん方は、恥じることはないと考えるのだろうか？

有識者も言及する「**多選自粛条例**」に反する4選出馬！

理由が「**コロナ対策**」とは、よくも又ケ又ケと言える…良識ある川越市民は、市の法律に従って**3期を終える川合市長を退場**させよう！

2020年11月6日付けの毎日新聞は「どうする4選出馬」と題したコラムを掲載した。



[<クリックすると拡大します>](#)

同記事では、特にさいたま市長・清水勇人氏と川合川越市長の動向を伝えている。その後、川合市長が明確に4選出馬を表明した。2009年に川合市長が提案して制定した多選自粛条例に自身で反することになるため、川合市長は今年11月27日から開催される定例会（12月議会）に廃止条例案を提出するという噴飯物の茶番を演じるようだ。

そうまでして4選に出馬する理由について川合市長は、これまで同市で240人の感染者を出して感染拡大が止まらない新型コロナウイルスへの対策を挙げて「**現職が市政を継続させる必要があると考えた。理解をいただきたい**」（日本経済新聞11月13日）などとコメントしている。まさにウソに塗れた「おれ様」市長。

よくもヌケヌケと「**コロナ対策**」と吹けたものだ。今年1年の川合市政の「**コロナ対策**」がどれほど**懈怠（けたい）に満ちた杜撰（ずさん）**なものだったか、本紙の記事を振り返っただけでも十分に証明されている。2月に、すでに新型コロナウイルスへの警戒が巷でも話題になっているときに、川合市長は商店街の新年会に市税で参加しコンパニオン女性と「**お手々つないで**」カラオケに興じる始末。

また、本紙既報の国民1人10万円の定額給付金については、川合市政は給付業務の**委託に2億1千万円以上**を民間事業者に丸投げしながら、委託料わずか**800万円**でお釣りまで出した坂戸市・鶴ヶ島市よりも給付作業ははるかに遅滞した。

人口比は理由にならない。坂戸市が人口およそ10万人に対して自治体職員603名、800万円の委託費で給付作業を完遂したならば、人口35万に職員2,000人余の川越市が2億円以上の委託費を投じたら、坂戸市よりも**3倍以上の迅速さ**で給付作業を終えていなければならない。しかし、実際には川越市が最も遅かった。川越市の対応がいかに酷かったかを窺い知れるネットの書き込みも各所に散見される。

それ以外にも、弁護士がいるというのに公務時間を割いてまで住民訴訟を提訴した市民を名誉毀損で訴えた裁判に、ほぼ欠かさず出廷するような川合市長の行動律からは、到底、市長としての職責と市民社会の安寧や保護を考える姿勢は見受けられない。川合「おれ様」市長は、自分のことしか頭にない。

前掲の毎日新聞にコメントを寄せた**埼玉大学の松本正生・社会調査研究センター長の指摘が正鵠を射る**。『**多選自粛条例制定の公約は、選挙用のアクセサリーだったのだろう**』そして川合市長は、今度は「**コロナ対策**」を4選出馬への免罪符に悪用して、弁護士でもありながら自らが制定した市の法律さえ、逡巡なく廃止するという傲岸不遜を誰はばかることなく推し進める。「**現職が市政を継続する必要がある**」などとは笑止千万で、良識ある市民ならば「**現職が市政から離脱する必要がある**」のが現在の川越市であることを知っている。

もちろん、大半の川越市民には良識があるのだから、本来ならば、来年1月24日に投開票される川越市長選挙で投票行動を起こすべきだ。もちろん、現職市長にNOを突きつけ川越市政を「清新」するために。

それ以前に、今年11月27日から始まる議会に、川合市長が提出するという**多選自粛条例の廃止案は否決される**ことが当然だ。川合氏が弁護士であることは誰もが知っているが、**多選自粛条例は市の法律**であり、民主議会によって市民の代弁者たちが制定した重たいものだ。その法を、単に市長の座にしがみつきたいだけの川合氏のために廃止することは断じて許されない。

万一にも、市議会が「おれ様」市長権力に屈服して同条例が廃止されても、市民の投票は廃止できない。

しかし本紙は、川合氏を川越市のトップの座に**3期12年も座らせた川越市有権者を決して楽観**していない。川合氏に投じられる票の多くは、支持政党、投票すべき候補者があらかじめ決まっている、いわゆる政権与党の票田がほぼ全てだろう。政治家としての実績や、それこそFacebookの投稿を閲覧した上で、よく考えて川合市長に投票しよう！という市民は極めて希（まれ）なはずだ。

つまり、川合氏は常に「**棄権票**」によって当選しているも同然だ。事実、川合氏が3期目を決めた前回の川越市長選での**投票率は30%に満たず**、川合氏の得票数は56,597票だった。川合氏の支持者、後援会の投票が当選させたというのは正解ではなく、それ以外の市民による投票棄権が長期にわたる川合市政を担保してきたとも言えるのだ。

そして、川合支持層が動くことはないだろう。だが、今年2020年から世界は予測もしなかった激変期を迎えた。抽象的な表現だが、世界中の市民が立ち上がる時代だ。**若手の対立候補・川目市議**が予想を超えて健闘する可能性もあれば、川合善明氏が市長4選を決めたとしても、**辞職に追い込まれる重大な事件**が明らかになることも起こり得るだろう。

川合市長はいろいろな意味で**数々の爆弾**を抱えている。いまは2ヶ月先の選挙に執着するばかりの川合市長は、いつにもまして市民社会など眼中にないだろうが、当選後には**嫌でも現実に引き戻される**ことになるだろう。